

六 発展する姫路

(一) 姫路藩から県へ

姫路県から飾磨県 一八六八年（慶応四年）、徳川幕府が倒れて武家政治が
終わりをづけ、天皇による政治が始まり、九月には元号が明治と改元されまし
た。姫路藩は明治維新のとき徳川幕府に味方したので朝敵とみられ、明治政府
にいらまれました。

こうしたこともあって姫路藩主酒井忠邦は、全国の大名にさきがけて政府に
版籍奉還の意見を出し、「封土（領地）、兵権（軍事力）を朝廷に返し、郡県制
を定めるべきである。」と申し出ましたが、採り上げられませんでした。しかし、
明治二年薩摩など四藩についてこの意見が採り上げられました。



完成した飾磨県庁

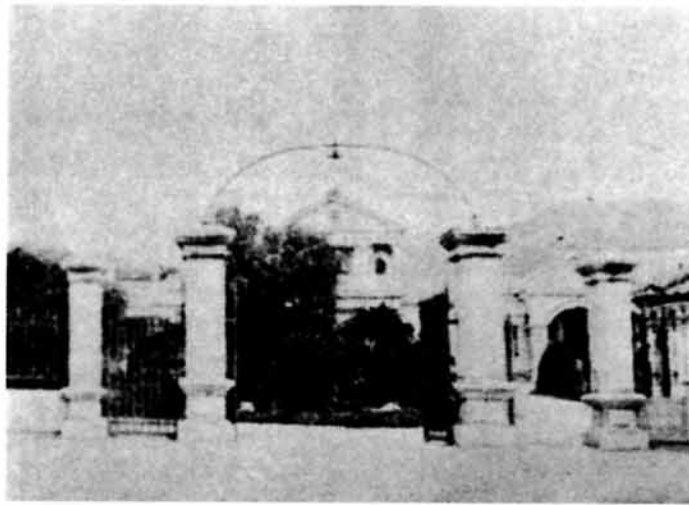
(この直後に飾磨県が廃止され、支庁舎になった)

五月、政府は府藩県三治の制度を実施し、姫路には藩庁が置かれ、忠邦は知藩事に任命されました。

神戸市を中心にした旧幕府の領地に兵庫県が置かれ、初代県知事に伊藤博文が任命されたのもこのときのことです。

一八七一年（明治四年）七月十日、廃藩置県の詔書が発せられ、姫路藩は姫路県になりました。播磨国にあった他の藩も明石県・龍野県・赤穂県・三日月県・三草県・

おのの 小野県・あんじ 安志県・はやした 林田県・やまさき 山崎県・まるがめ 丸亀県（あぼし 網干地区の一部）になりました。しかし、同年十一月二日には府県統合が行われて、播磨国十県は姫路県に統合され、飾磨県と名前が変わり姫路城内に県庁が置かれました。



兵庫県庁の庁舎
(明治30年ごろ)

新兵庫県の発足 一八七六年（明治

九年）八月、政府は全国三府七十二県を統合して三府三十五県にしました。飾磨県は豊岡県とよおかや名東県みょうとうの一部（淡路島あわじ）とともに兵庫県に統合され、今の兵庫県ができあがったのです。

これまでの兵庫県に比べて、面積は九倍に、人口は六倍以上の百三十七万人に増えました。

兵庫県が他の府県に比べて大きいのは、開港場を持つ県が貧弱では外国人にあなどられるので、大県にしようという政府の方針からです。同年七月に完成していた飾磨県庁の建物は、そのまま県の飾磨支庁舎として使用されました。

姫路連隊の設置 一八七一年（明治四年）、政府は兵部省ひょうぶの制度を改めて、

陸軍掛かかりと海軍掛とに分け、八月には、旧諸藩の常備兵（武士）を全部解散しました。

これに代わって、東京・大阪・東北・九州に常備軍を配置し、これを鎮台ちんたいと呼びました。翌年五月、兵部省を廃止はいしして陸軍省と海軍省を置き、十二月に徴兵令へいを発しました。

一八七三年には四鎮台を六鎮台に増やし、営所十四を置き、歩兵ほ・騎兵き・砲兵ほう・工兵こう・輜重兵しちょうの五科の将兵合計三万千六百九十人を平常の常備兵と定めました。翌年七月、大阪鎮台歩兵第十連隊が姫路の旧城内に配置され、姫路営



姫路連隊の兵營（明治40年ごろ）

所が誕生たんじょうしました。

池田輝政てるまさが姫路の町割りをして以来、
城下町として繁栄はんえいした姫路は、軍人の
町となりました。

一八八二年（明治一五年）の軍備かく拡
張ちようで歩兵第八旅団りよたんが設置され、歩兵第
三十九連隊が置かれました。一八九八
年（明治三一年）には第十師団が置か
れて、騎兵・砲兵・輜重兵の特科兵三
連隊を加え、太平洋戦争が終わるまで
軍都として栄えたのです。

一九〇三年（明治三六年）十一月、



昔の御幸通（明治40年ごろ）

陸軍大演習が姫路平野で行われ、明治天皇が行幸され、城北練兵場（今の競馬場）で大観兵式が行われました。

当時、天皇をお迎えむかえることはたいへん名譽めいよなことと思われていました。そのため、姫路駅から城北練兵場に通じる広い道路を造りました。御幸通みゆきどおりの名前は、これを記念してつけられたのです。